

全日本遊技事業協同組合連合会「環境自主行動計画」

2007年9月20日
全日本遊技事業協同組合連合会

全日本遊技事業協同組合連合会「環境自主行動計画」

2007年9月20日
全日本遊技事業協同組合連合会

現在、我々は、特に地球温暖化問題に代表されるような、過去の公害問題とは異なる形の環境問題に直面している。

この環境問題は、人々の日常生活と密接に係わっており、また因果関係が複雑に絡み合ってもたらされていることから、限定された国や一部の地域だけで解決出来るものではない。

しかし、近い将来の人類生存の危機をもたらすと思われるこの問題について、後世に負の遺産を残さぬよう我々、社会を構成する全ての人間が現在何をなすべきか考え、全ての生物と共存繁栄が可能な社会を構築するための答を出さなければならない。

その社会を実現するためには、あらゆる主体が環境への負荷低減に自主的且つ積極的に取り組むことが必要である。

このような認識に立ち、全日本遊技事業協同組合連合会（以下「全日遊連」という。）は、今般、「環境自主行動計画」を策定し、地球環境保全に努めることとする。

1. 地球温暖化対策

2005年2月に京都議定書が発効し、政府は、温室効果ガス削減目標6%の達成を確実なものとするために必要な措置を定めるものとして、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、京都議定書目標達成計画が2005年4月に閣議決定されている。

この目標達成計画については、2006年11月から評価・見直しが行われており、2007年7月には環境・経済産業両省が中間報告案を両省合同審議会に提示し、年内を目途に最終報告がまとめられる。

中間報告案では早急に具体的内容を検討する対策として、自主行動計画の拡大・強化（未策定業種での計画策定促進等）が掲げられており、当業界も自主行動計画の策定が求められている。

全日遊連においては、自主行動計画を策定するに当たり、CO₂排出抑制に向けた取組みを中心に継続的且つ積極的に地球温暖化対策に取り組んでいくこととする。

なお、この自主行動計画は、毎年、フォローアップを実施するものとする。

(1) C O 2 排出抑制に向けた取組み

目標

全日遊連では、C O 2 排出抑制に対する目標設定に当たり、ホールに設置されている遊技機全体の電飾化（キャラクターとのタイアップ等による音と映像の演出等）、空調設備及びホールの外観（ネオン、レーザー光線）等により他の業界より電気使用量が多く、その占める割合も高いと思われることから、電気使用量から算定したC O 2 排出量を指標として取り上げ下記のとおりとする。

全日遊連加盟の組合員ホールは、2010年度におけるC O 2 排出量を基準年の2007年度実績から9%程度削減することを目標とする。
なお、京都議定書の第一約束期間は、2008年度から2012年度の5年間であることから、この目標をこの5年間の平均値として達成することを目指す。

注1：「基準年」とは、いつ時点のC O 2 排出量に比べて削減するかという出発点の年。

全日遊連では、2006年以前の実態把握が不可能なため2007年度を基準年とする。

注2：「C O 2 排出量」は、電気使用量から算定。

注3：「5年間の平均値として達成する」とは、C O 2 排出量の削減実績を基準年（2007年度）から2008年度で3%削減、2009年度で6%削減、2010年度で9%削減、2011年度で12%削減、2012年度で15%削減するということである。

なお、この目標は、基準年のC O 2 排出量を把握していないことから、暫定的であり、今後、実態調査等により実態把握を行い、具体的なC O 2 排出抑制対策を検討又は実施する段階において適宜、見直しを行うこともあり得る。

CO₂ 排出量算定式

電気使用量に単位使用量当たりの排出量を乗じて求める。

$$\text{CO}_2 \text{ 排出量 (tCO}_2) = \text{電気使用量 (kWh)} \times \text{単位使用量当たりの排出量 (tCO}_2 / \text{kWh)} \\ \text{(排 出 係 数)}$$

温室効果ガス算定・報告・公表制度の電気事業者ごとの排出係数は、電気事業者が発電に伴って排出した温室効果ガスの排出量を算出したものであり実態に即したものである。しかしながら、その分、原子力発電所の停止等のアクシデントがあると係数が大きく変動することとなり、全日遊連による省エネ努力分が十分に把握できなくなるおそれがある。このため、一定の前提を置くことでこのような変動を緩和した、電気事業連合会の公表値を使用することで検討していきたい。なお、具体的な使用方法については、他の業界を参考にしつつ、検討することとする。

CO₂ 排出抑制対策

全日遊連では、CO₂ 排出抑制に直接的な効果を有する店舗設備の見直し等を基本とし、下記事項を中心に積極的にCO₂ 排出抑制対策に取り組むこととする。

なお、CO₂ 排出抑制対策については、数値目標と同じく、基準年のCO₂ 排出量を把握していないことから、今後、実態調査等により実態把握が出来次第、追加等を行うこととする。

省エネ診断、省エネ改修、省エネ機器の導入及び建具対策

具体的取組み事例

- ・ ホールのエネルギー使用状況等の診断を行う。
- ・ E S C O 事業の導入を検討する。
- ・ 白熱灯を蛍光灯に替える。
- ・ 窓を複層ガラスに替える。
- ・ 窓を二重窓にする。
- ・ 窓に断熱フィルムを貼る。

- ・トイレ等の照明に人感センサーを導入する。
- ・空調送風機のインバータ化。
- ・空調設備のクリーニング。
- ・照明のインバータ化。

冷暖房温度の設定緩和

具体的取組み事例

- ・業務に支障のない範囲で地域、建物構造、実施日の天候・湿度・外気温を踏まえ、通常設定温度より2 程度緩和する。

屋上緑化、壁面緑化活動の推進

「チーム・マイナス6%」への積極的参加

環境省「ブラックイルミネーション」への積極的参加

(2) その他の温室ガス排出抑制に向けた取組み

植樹活動(運動)の実施を検討する。

2. 廃棄物対策

使用済み遊技機の適正なりサイクル処理を推進する。

3. 環境マネジメント

ホールの実情に合った環境管理システムと環境監査について研究する。

4. その他

省エネモデル店(仮称)の選定、募集及び表彰を検討する。

全日遊連で実施するCO₂排出抑制対策の取組みについてホームページ等により広報を行う。

各ホール(各企業)で実施している省エネ、CO₂排出抑制対策の取組みについて報告を求める。

ホールにおけるより効果的なCO₂排出抑制対策の取組みについて募集する。